

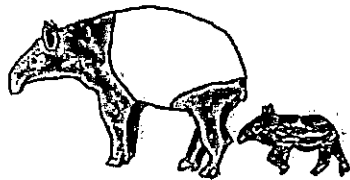
★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください

①赤ちゃん誕生

— マレーバク —

6月22日にオスの赤ちゃんが生まれ、カナタと名付けられました。父親は当園生まれで20歳のユメタ、母親は7歳のカナエ。400日弱という長い妊娠期間を経ての出産でした。おとなは黒と白のはっきりした模様ですが、子どもはウリ坊と呼ばれるイノシシの子に似た縞模様で、展示場の木の下にいと木漏れ日にまぎれて見つけにくくなり、この模様が天敵からのカモフラージュに役立つことが想像できます。半年から1年でおとなと同じ白黒になります。

エサは青草、キャベツ、ハイキューブ、枝で、カナタも母乳のほかにおとなのエサも食べ始めています。

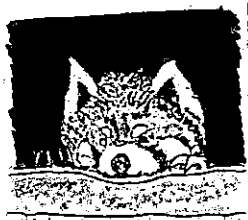


マレーバクの生息地はミャンマー、マレーシア等東南アジアの熱帯雨林。近年、人による農地開発などで熱帯雨林が減少し、絶滅危惧種に指定されています。(czv 橋)

②苦手な夏を乗り越えました

— レッサーパンダ —

7月に23歳の誕生日を迎え、変わらぬ人気の風太は、今やひ孫の孫まで5代にわたって計80頭の子孫に恵まれたスーパーおじいちゃん。りりしい



立ち姿はもう見られませんが、採食するのがむずかしくなった笹の葉はパウダーにしてみらうなど大切に世話され、元気に歩きおだやかに眠って過ごしています。一方、園内のほかの5頭も、1頭1頭に吟味されたエサをもらい、冷房のある部屋やミストの出る展示場で酷暑の夏を乗り切ることができました。

レッサーパンダはイヌと同じくフィラリアやジステンパーなどの病気になる恐れがあるので、予防薬を飲ませたり、飼育係さんは靴底の消毒を欠かさないなど、健康管理に細心の注意を払っているそうです。

みんな元気で長生きしてね！(czv 金)

③兄妹なかよく遊べるかな

— マンドリル —

中央アフリカ西部の熱帯雨林に暮らすオナガザル科のサルで、数頭から数十頭の群れで生活します。そのほとんどがメスと子どもで、オスはリーダーオスなど少数ですが、繁殖期には外から別のオスが合流し、オスの頭数が一時的に多くなります。ときには数百頭になることもあり、ヒトを除くサルの中で最も大きな集団を作ります。成獣の顔は赤い鼻、青い頬、黄色いヒゲという特徴的な配色をしており、またオスの臀部は赤～青紫色の鮮やかな色合いで、派手であればあるほど群れの中で優位であるといわれています。



当園ではヒカルとマリーの間に今年5月に第二子マリカが生まれました。これから大きくなるにつれ兄のイブキ2歳と遊ぶ姿が見られるようになるでしょう。(czv 加)

④なかよしペアが仲間入り

— カンムリシャコ —

海の甲殻類のシャコとはちがい、鳥のシャコは小さなキジの仲間です。東南アジアの標高が高くない熱帯雨林の地表近くにすんでいて、植物の種や果実、昆虫などを食べます。25cmほどの丸っこいフォルムで、名前の通りオスの頭には赤いふさふさの冠羽があり、メスにはないので見分けがつきます。

バードホールの1階で、オスとメスが寄り添って歩く姿が見られます。まだ新しい環境に慣れていなくて隠れてしまうこともありますが、あたたかく見守ってくださいね。(czv K)



★それぞれの動物がいる場所は下の地図をごらんください

⑤ネコにそっくり? でもやっぱり野生 — チーター —

チーターは時速100kmを超える世界地上最速の動物。でも、速いだけではありません。爪はスパイクのように地面をつかみ、長い尻尾は舵を取るハンドルの役目、しなる背骨は強力なバネのように働きます。急カーブも急ブレーキも得意で「走る・曲がる・止まる」を兼ね備えた高性能スポーツカーのような動物なのです。

また、チーターはネコ科で、毛づくろいをしたり地面でゴロゴロしたりする姿は、まるで家で暮らすネコのようです。ところが飼育員さんによると、大きく違うところが…。リラックスして寝転んでいても、顔だけはしっかり起こし、周囲を警戒しています。ぜひ展示場で、ネコのようなしぐさと野生動物らしい鋭い表情を探してみてください。



(ozv R.K.)

⑥かわいいだけじゃない、「毒」をもつサル — レッサーズローリス —

この毒、肘の内側から出る体液が、唾液とまざってつくられるというからおもしろい。体に塗って天敵や寄生虫などから身を守る。人が噛まれるとアレルギーのように、アナフィラキシーショックを起こすことがある。尾は、原始的なサルなのに短く、ほとんど見えない。バランスを保つのが難しいのではないかと思うが、強力な握力、跳躍しないこと、緩慢な動きのおかげで問題なし。



標準体長20cm、体重400gというが、昨年東山動植物園(名古屋)より転入したオスは好物のミルワームやコオロギを食べ、体型はまん丸。体調管理に巣ごと体重測定するそうだ。

この子たちが暮らす「夜行性動物舎」は、夕方16:00に灯がとり、スローリスのお休みタイムとなる。(ozv もも)

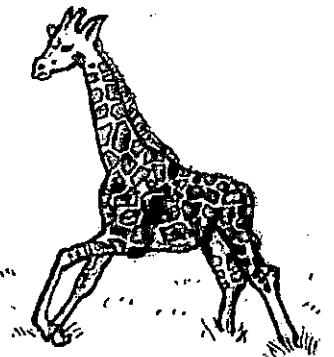
★ボランティアが毎月第2、第4日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイド「ZOO ボラ・クイズ・DE ガイド」をしています。当日園内放送でお知らせしますので、ふるってご参加ください。

⑦背は高いけど慎重派 — アミメキリン —

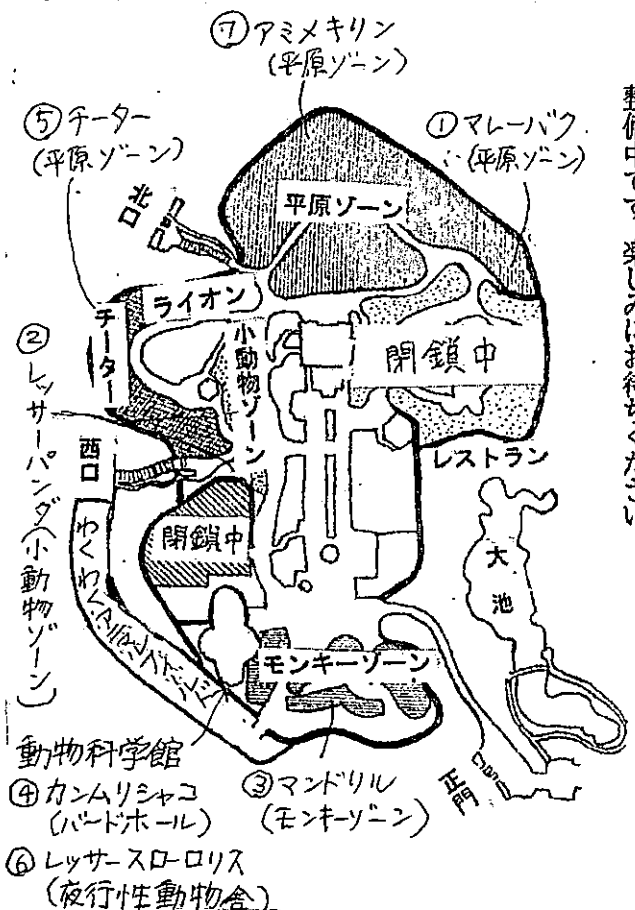
キリンの長い首は、高いところの葉を食べるためと、広いサバンナで遠くまで見渡して外敵から身を守るため発達したと言われています。そのため、野生のキリンはめったに首を地面まで下ろすことはなく、眠るときも立ったままで短い睡眠を取ります。

一方、安全な動物公園で過ごしているヨウタやコノカは、足を大きく広げ、長い首を地面まで下げて下草を食べる姿を見せてくれます。夜になると獣舎の中で座って眠ることが多いようです。

性格はとても慎重で、コノカは雨上がりにできる水たまりも怖くて立ち止まってしまうのですが、飼育員さんが通って見せると、安心してついて来るそうです。



身長約4.7mのヨウタと約3.5mのコノカ、園内で一番背の高い2頭に会いに来てくださいね。(ozv ま)



★鳥類水系ゾーンは「湿原ゾーン」として生まれ変わるため整備中です。楽しみにお待ちください。